

第3回熱海市子ども・子育て会議 議事録

開催日時 : 平成26年9月2日(火) 15:00~16:15
出席者 : 委員10名
欠席者 : 委員1名
事務局 : 4名
委託業者 : 1名

1 開 会

2 会長あいさつ

会 長 : 前回3月に会議を開き、約半年が経った。私はすぐ忘れてしまうため、また見直しながらいろいろ勉強した。委員のみなさんからは、今日の委員会で意見をいただけるとありがたい。今日で第3回目の会議となるが、市の当局でも案を出すのに大変なときである。子どもが生まれる数は、今ほとんどが減少傾向にある。熱海でも10年前より相当数が減っている。その現状をなんとか食い止めたいと感じ、また、みなさんそれぞれが委員会に限らず課題意識を持っていただきたい。このような中で、アンケートで各家庭の理想の子どもの数は3人とだが、現実では2人と回答していて、理想に近づけられるような計画を策定し実行していきたいため、活発な意見をいただきたい。

3 議 事

(1) 諮問

市長不在のため、健康福祉部長より諮問。

(2) 量の見込みについて・・・「量の見込」調査票

量の見込みについて、「量の見込」調査票に沿って事務局より説明。

<質疑応答 >

なし

(3) 熱海市子ども・子育て支援事業計画(案)について・・・熱海市子ども・子育て支援事業計画(素案)

熱海市子ども・子育て支援事業計画(案)について、熱海市子ども・子育て支援事業計画(素案)に沿って事務局より説明。

<第3章について質疑応答>

なし

<第4章について質疑応答>

なし

<第5章1について質疑応答>

委員：量の見込みの3号認定の0歳児の22人という内訳は、どこの保育園などわかるか。

事務局：今年度をベースに確保の数字を入れている。小嵐が3人、和田木が3人、初島が1人、多賀が3人、富士が3人、栄光が9人、これが0歳である。

委員：熱海市自体は量の見込みは統計上減っていくのはわかるが、市の政策により増えていくことを想定したときに、何パーセントくらいを考えているか。

事務局：現時点では増える見込みを加味していない。人口が過去の3年間から統計を取っていて、それをもとに算出している。人口の動きのためわからないが、政策等で変動する場合は、毎年度この計画は見直しできるため、今の時点では加味できない状況である。

委員：あくまで100%を超えていけばいいということか。

事務局：そうである。しかし、もし人口が増えた場合は、新たな施設をつくるのか、現在ある幼稚園や保育園を認定子ども園にするなど方法はあるため、足りなくなるとなったら、5年計画であるが、毎年度計画見直しは可能であるため、必要な場合は計画を変更していく。

<第5章2について質疑応答>

委員：33ページの(2)放課後児童健全育成事業について、今後はニーズの動向を見極め、と書いてあるが、具体的には何か実施する予定があるのか。

事務局：実際に前回やったニーズ調査では、時間延長と土曜日利用の希望が若干あった。時間は今16時半までだが、これを17時、18時までにしてほしいという希望が2割ほどある。これが保育料が上がったり、安全上保護者のお迎えを強制すると、数字は下がることが予想される。これを実際に学童に行っている全員に聞きたいと考えている。翌年度からできれば対応していきたい。土曜日についても同様である。ただ来年度にむけて、各クラブとどこまでやるとか個別か全体で統一してやるなどの話し合いをし、判断していきたい。

委員：ニーズ調査だが、もっと細かく項目を分けてお母さんたちに質問してくれないと、何を言ったらいいのか、何を困っているのかわからない。調査時にもっと細かい部分までアンケートすれば、本当に困っていることや学童保育の希望がわかると思う。友達のお母さんに聞いた話では、給食が無い日など、学童がない日とか本当に必要な時にやらしてもらえず、今年はやめようとなってしまい、1時間くらいの習い事をさせているとのことだった。細かい部分まで調査すれば、保護者の本音がわかると考える。

事務局：ニーズ調査については相談しやっていきたい。あとは時間なども指導員の就労状況も厳しく、成り手がいない。人員確保が厳しい中で今やらしてもらっているため、そこも含めて方法を考えていきたい。

<第5章3～7について質疑応答>

委員：5章4の「子どもに関する専門的な知識及び技術を要する支援に関する都道府県が行う施策との連携」の(2)「障害児支援施策の充実」について、現状をお話したい。現在熱海市には障害児の施設がないため、民間幼稚園、保育園で支援をしていかななくてはならず、幼稚園と保育園で障害児の保育をしている。小さな障害はいいが、大き

な障害では、そのままでは受けられないため看護師を雇い、週に2、3回きている。保育もいろいろ悩みながらやっている。幼稚園でも糖尿病等で、お母さんと一緒に登園している。障害は知的や精神もあり、専門の保育が必要とされているが、なかなかそういう施設がないため、障害児の保育を幼稚園と保育園で行い、大変な状況である。また、障害児の保護者支援もとても大事で、対象児童と離れてお母さんたちのストレスを解消させるという意味でも、保育園は大事な位置づけとなっている。ぜひ、就学前の障害児の通園施設があったらいいと感じる。国からこういうことは言われていないと思うが、市の事業の中で障害児保育も充実してもらえたらと感じる。また、家庭崩壊が進んでおり、ネグレクトや虐待の子どもたちが保育園に入っている。保育園入園の手続きはしているが1日も保育園にこなく、園長や副園長が訪問し、生きているかどうかを確認してくださいと言われていた。そういう状態になっている子どもたちもいるため、ぜひ支援を市の方で考えていただきたい。

事務局：市としては今検討段階だが、児童発達支援という、障害児を中心としたサービスなど、支援を行う施設建設を検討している。近いうちにやるかどうかが決まる。方向が決まって計画に間に合えば、ここに含めていきたい。

委員：病院では保育をするなど受け入れはできないか。当然病院のため、そういう専門の人がいるはずである。

委員：病院では、地域に還してくださいという意向があり、地元の保育園などに入りたい、という流れになっている。みんな国際などに通っていて、その中で3歳くらいになると保育が必要ということで、なるべく地域の施設に入ろうという指導があるようだ。

事務局：そういうのはたぶん市外の施設に何人か通っていて、それと並行し保育園に行ったりするケースもある。他の事業と同じで、一人だと事業ができないなどあると思うが、今検討している。いい方向になればと感じる。

会長：学校なら特殊学級があるが、これから今のようなニーズが高まってきたとき、考えなくてはいけない問題である。小泉委員が言うように、現場における対応は大変なものである。

事務局：児童発達支援の設置について、今準備しているが、就学前の幼稚園、保育園に通う前の子どもが毎日児童発達支援に通うのではなく、併用して、週に2日は通常の保育園に通うなど行き来できるよう、事業主にプレゼンをし、そういう事業所を決め、場所はいくつか候補があるが、今検討している。また、障害と教育委員会、子育て、健康づくりなど各課で連携し進めていきたい。

委員：49ページ、5章7の「子どもの遊び場・居場所、安全の確保」について、小公園はあっても柵がなく、国道に挟まれボールが使えない。遊び場の充実というと単純に公園となりがちだが、熱海は海もあり、サンビーチに遊具を設置できるかも含められないか。夏場の利用は観光客が多いが、秋や冬になるとほとんど人がいなくなり、遊ぶものが何もないビーチになる。海に入れる期間しかそこを利用しないよりも、遊び場としてのビーチの利用を検討できるのではないか。

事務局：小公園については実施しようとしている。サンビーチに関してはお母さん方から意見

をいただき、子育てサークルを中心に意見をもらっている。今後意見として、サンビーチをできるかどうか検討したい。計画には全体的に書いているため、個別の公園等の名称は記載しないが、実務として今後、検討していきたい。

会 長：熱海の特質でもあるため、ご意見として承りたい。

委 員：私は上多賀地区だが、マリホールは草が伸び放題になっており、また大きな木がたくさんあり、子どもが遊んでいるところを見られず、死角が多すぎて子どもを安全に遊ばせられない。遊具を設置することよりも、今ある公園を整備すれば、いい遊び場ができるのではないかと考える。

事 務 局：計画への個別記載はしないが、関係部署と調整していきたい。

<第6章について質疑応答>

なし

(4) その他

今後のスケジュールについて、事務局より説明。

今後、第4回目の会議を開催し、委員の意見を踏まえ計画の素案を示し、パブリックコメントを実施。その後、第5回目会議を開催し、パブリックコメントで寄せられた意見の検討及び事業計画の答申を予定。現時点で国において決定すべき事項が示されていない部分もあるため、スケジュールは変更される可能性もある。

<質疑応答>

委 員：素案の43ページ、第5章3の「教育・保育の一体的提供及び当該教育・保育の推進に関する体制の確保の内容」について、質の改善についてはこれからと言っていたが、そのあたりは今度の計画に盛り込まれるのか。

事 務 局：1ヶ月半ほどあるため、教育委員会と調整し、盛り込んでいく。

4 閉 会